

『温故知新』

このコラムを書き始めたのが平成20年(2008年)9月だから、もう3年を越えて本号で44号となる。インターネットでの作業を苦にされない方なら、豊中駅前まちづくり会社のホームページ(*)を開いて頂ければ、その第1号は『過ぎ去った甲子園、味わった豊中の暖かい心』だったことが分って頂ける。ホテルアイボリーに投宿した(春秋ともに甲子園大会に出場する大分県勢はアイボリーを定宿としている)大分県の日田林工高校が、地元大阪桐蔭高校との闘いに善戦して帰郷する際にボランティア記者が取材した情報から、日田の町の紹介、豊中への印象を記事にしたものである。

この会社は、1999年12月に、まちづくりに必要な事業を「まちに住む人」「商売や事業をする人」「まちを舞台に活動する人」が進めていく社会を作ろうという考えのもとに、豊中駅

前まちづくり協議会の有志と、活動の賛同者が出資者となって始められた。

その後、活動を維持するために各種の広告料・入場料・手数料を頂きながら、数多くのボランティアで支えて下さる方々の善意に寄りかかって活動が続けられている。

したがって、形式的には法人として会社であるが、役員もボランティアであり、イベントの都度、協力してくれるスタッフも、企画会議に集まるメンバーも手弁当である。合言葉は、唯一つ、青臭く“まちのために”である。

* ホームページ <http://www.tmconet.com/>



そして、豊中駅前に10,000部を配布するこの「まちづくりニュース」の発行、「アイボリーフォーラム」「アイボリー寄席」という催事、各種教室の会議室貸し、簡易印刷業、8円コピー、そしてまちづくり推進協議会の事務局業務…。ささやかながらも、まちなかで欠かせない存在になるため、エネルギーを燃やし続けています。そして、協力くだ

さる方々に心から感謝です。

このたび、このまちづくりニュースに連載の『豊中駅前の歴史を振り返る』とこのコラム集『まちなか散歩』を発行しました。是非、ご覧下さい。まちづくり会社の事務所に準備しております。まちの先輩から聞き取ったまちへの思いが、まちづくりの支えにもなり、会社の経営基盤の支えにもなります。

日本一の気温を記録した今年の豊中の夏でしたが、これからは、この熱をまちを育てる情熱として、燃やしていきたいものです。ご支援をよろしくお願いします。

第32回 アイボリーフォーラム

主催: 豊中駅前まちづくり会社

シンポジウム
『日本は若者をどう育てていくのか』
～今、大学で起こっていること、そして教育の将来を考える～

講師/京都文教学園 学園連携推進室長 入江 保夫氏
教育機関は若者を育てる役割を担っているが、教育現場はそれどころでなく、危機感に迫られている。大学政策とそれに対応する大学経営の中で、どのような展望が見出せるのか?さらに、社会運動としての人づくり、環境育をどのようにしていけば良いのか?
この今日のテーマにどこまで迫れるか?出席者との意見交換の中であるいは出席者同士の意見交換の中で教育の将来を考える。

■パネリスト:

熊沢一郎氏/株財産プランニング研究所・代表
今瀬政司氏/特定非営利活動法人 市民活動情報センター 代表理事
福田惇一氏/近畿大学大学院 総合理工学専攻 環境系工学専攻

日時: 2010年10月19日(火)
午後6時半から
場所: ホテルアイボリー
参加費用: 1,000円

※事前にお申し込みください

参加申し込み: _____
豊中駅前まちづくり会社
TEL: 06 - 6858 - 6190